



篠原古戦場



篠原古戦場跡手塚山公園 首洗池

篠原に陣を布き人馬を休息させていた。平家軍に追いついた源氏軍が一気に攻め掛かると、平家軍は甲冑を着ける間もなく総崩れとなり散り散りに逃げ出した。混乱する平家軍の中で老将斎藤別当実盛は殿を引き受け奮戦する。手塚太郎光盛は平家軍の中に目立つ姿（赤地の錦の直垂に黒糸威しの兜）の実盛を見つけ、名乗りを上げて一騎討ちを挑むが、実盛は名乗りを拒んだまま討ち取られる。光盛が義仲の元に首を届けると、義仲は実盛ではないかと気づくが70歳を越えて黒髪であることを疑い、実盛をよく知る樋口次郎兼光を呼び寄せて問う。兼光は戦の前に実盛と会って話したことを思い出し、近くの池で首を洗うと髪は真っ白であった。実盛は久寿2年（1155）の大蔵合戦で父義賢が敗れ命を狙われていた義仲を、木曾に匿う手助けをした命の恩人であったが、生前の言葉どおり最後まで名乗らずに戦った潔さに義仲はさめざめと涙した、と平家物語は伝える。

合戦地：石川県加賀市篠原町周辺

対戦者：木曾義仲（源氏） vs. 平維盛（平家）

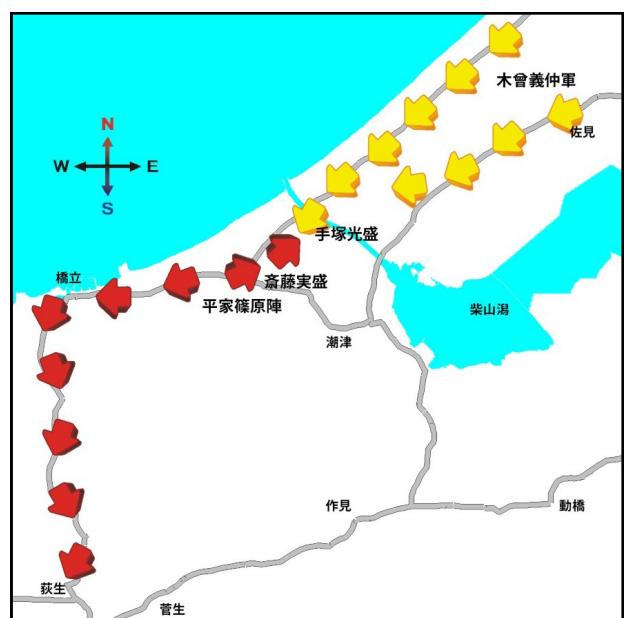
軍勢：木曾義仲軍 約5000

平維盛軍 約40000

開始年：寿永2（1183）年6月

「篠原の戦い」は平安末期における治承・寿永の乱の合戦のひとつで、平維盛率いる平家軍と木曾義仲率いる源氏軍が加賀国篠原で戦った。

加賀・越中国境の俱利伽羅峠の戦いで敗北した平家軍は、体制を整えるため北陸道を京まで引き上げる途中



古戦場周辺の伝承地は、実盛の亡骸を葬った「実盛塚」（篠原町）、実盛の首を洗った「首洗池」（手塚町）、実盛が髪を黒く染めた「鏡の池」（深田町）などがある。小松市には実盛が着用した鎧や兜を供養した多太神社があり、後世、奥の細道の途上多太神社を訪れた松尾芭蕉は「むざんやな 甲の下の きりぎりす」の句を詠んでいる。



古戦場カードに関する最新情報・お問い合わせ

北陸城郭プロジェクト（フリー・スタイル有限会社）

〒929-0335 石川県河北郡津幡町井上の荘3-9

TEL. 076-204-6046 FAX. 076-289-3943

E-MAIL. contact@j-sampo.com

ホームページ城郭さんぽ <https://www.j-sampo.com/>